

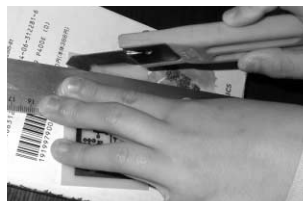


トリマやリレーなど部品の足やリード線が太い場合は、12mm程度のドリルをピン・バイスに取り付けて手作業で広げます。基板をビスで固定する3mmの穴も同様にドリルをボリュームのつまみなどに取り付けて行います。大きな穴をあける場合は、少しずつ数回に分けて行うと作業が楽にできます。

#### ドリル・スタンドやボール盤があると便利



ドリル・スタンドを使うと作業が楽にできます。また、工場にあるボール盤で穴をあけることができます。小さい径のドリルをチャックに取り付けられないときは、ドリルをピン・バイスに取り付けてからボール盤のチャックに固定をします。写真はミニドリルAC-D7とドリル・スタンドSDS-7を組み合わせた物



基板の周辺をアクリル・カッタで切断します。また、基板の切断は、金ノコでも行うことができます。切断面にバリなどがあれば、ヤスリや紙ヤスリで整形します。

#### 専用カッタも便利な道具



基板の専用カッタとしては、サンハヤトのハンドカッタ(PC-205)があります。最大切断寸法は200mmで、厚みが1.6mmのガラス・エポキシ基板、ガラス・エポキシ・コンポジット基板は、常温で、紙フェノール基板、紙エポキシ基板、紙ポリエステル基板は加温して切断をします。その他、軟質鉄板(0.8mm)、銅板(0.5mm)、純アルミ板(1.0mm)、垂鉛板(0.5mm)、フレキシブル基板、フラット・ケーブルの切断につかえるので自作派には揃えてもよいでしょう。